

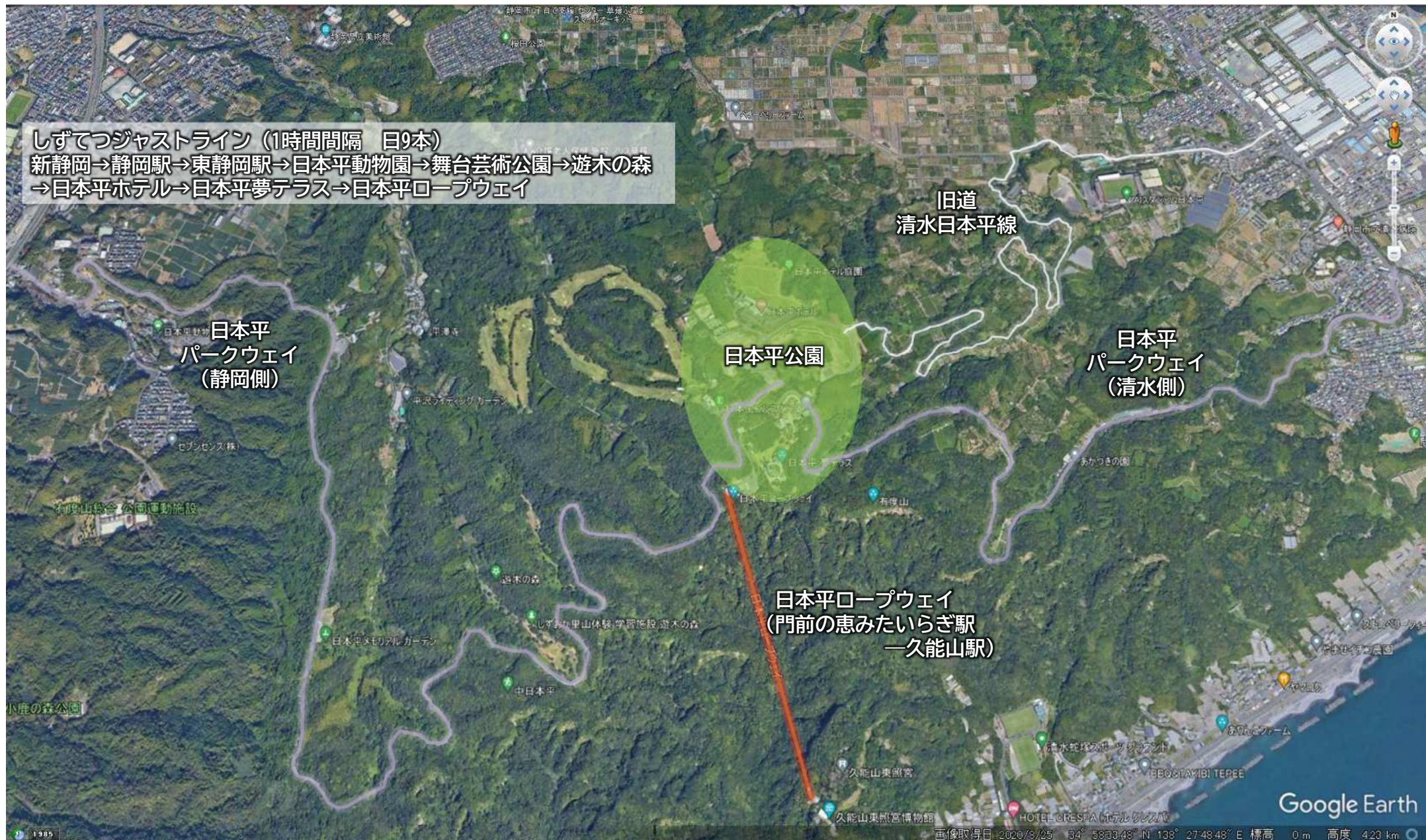
第5回 静岡市日本平公園 基本計画改定専門委員会

令和8年（2026年）5月15日

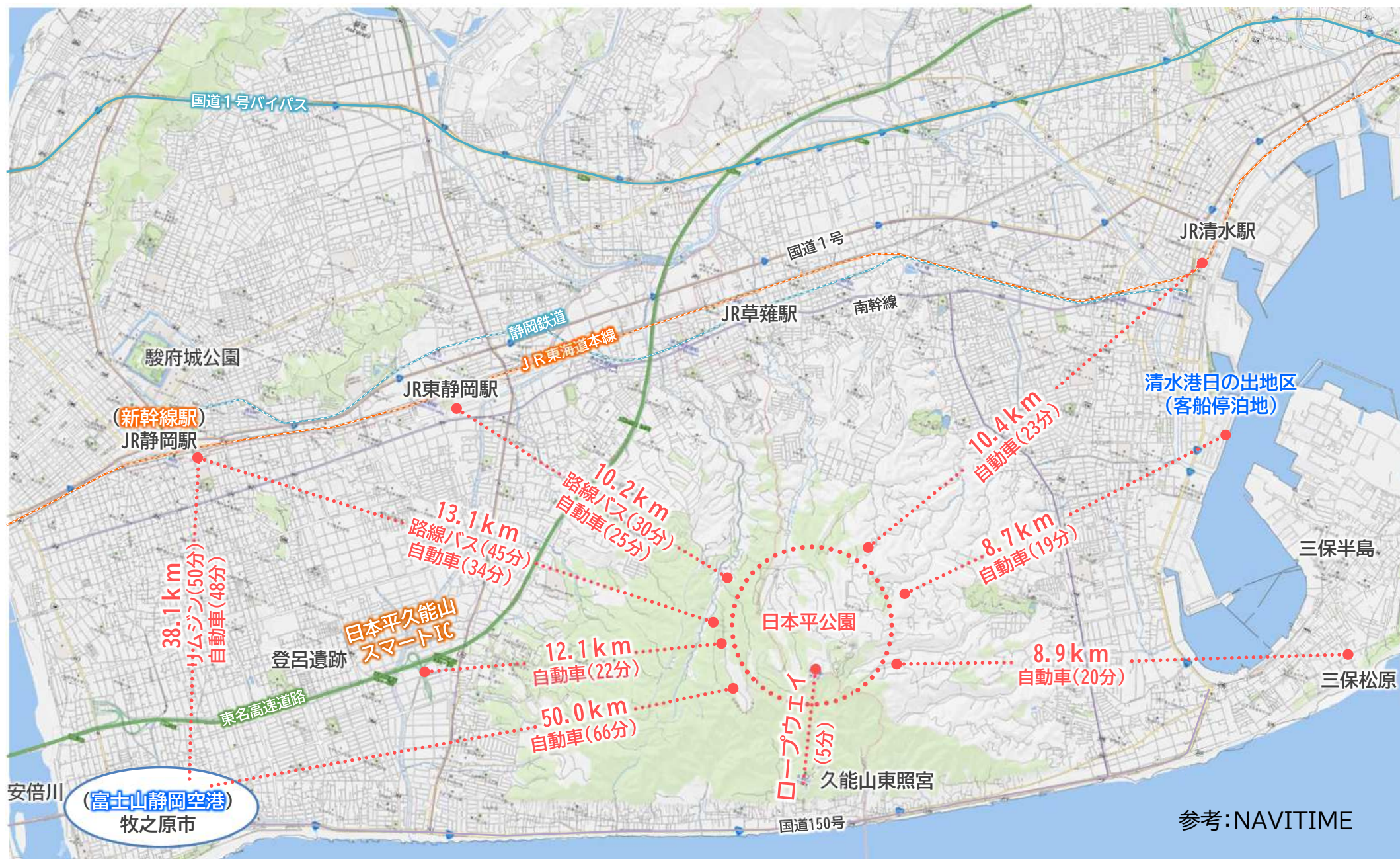
所在地 静岡県静岡市清水区草薙・馬走・村松地内（国指定名勝日本平、日本平自然公園を含む）
計画面積 都市計画公園面積 88.5ha（2024年から基本計画改定予定のため情勢に応じた変更の可能性あり）
基本テーマ 「風景美術館＝日本平」
公園特徴 四方の眺望に優れ、特に清水越しに富士山を望む眺望点として古くから観光地として栄える
主な施設 日本平夢テラス（静岡県）、展望回廊、大芝生広場、徳富蘇峰が評した眺望点
日本平ロープウェイ（㈱静岡鉄道）、日本平ホテル（㈱日本平ホテル）、久能山東照宮（国宝）
三保松原（世界遺産構成資産）、清水港（世界で最も美しい湾クラブ加盟）
登呂遺跡（国特別史跡）
受賞歴等 観光地百選平原の部1位、日本夜景遺産

◆位置及び主要アクセスルート

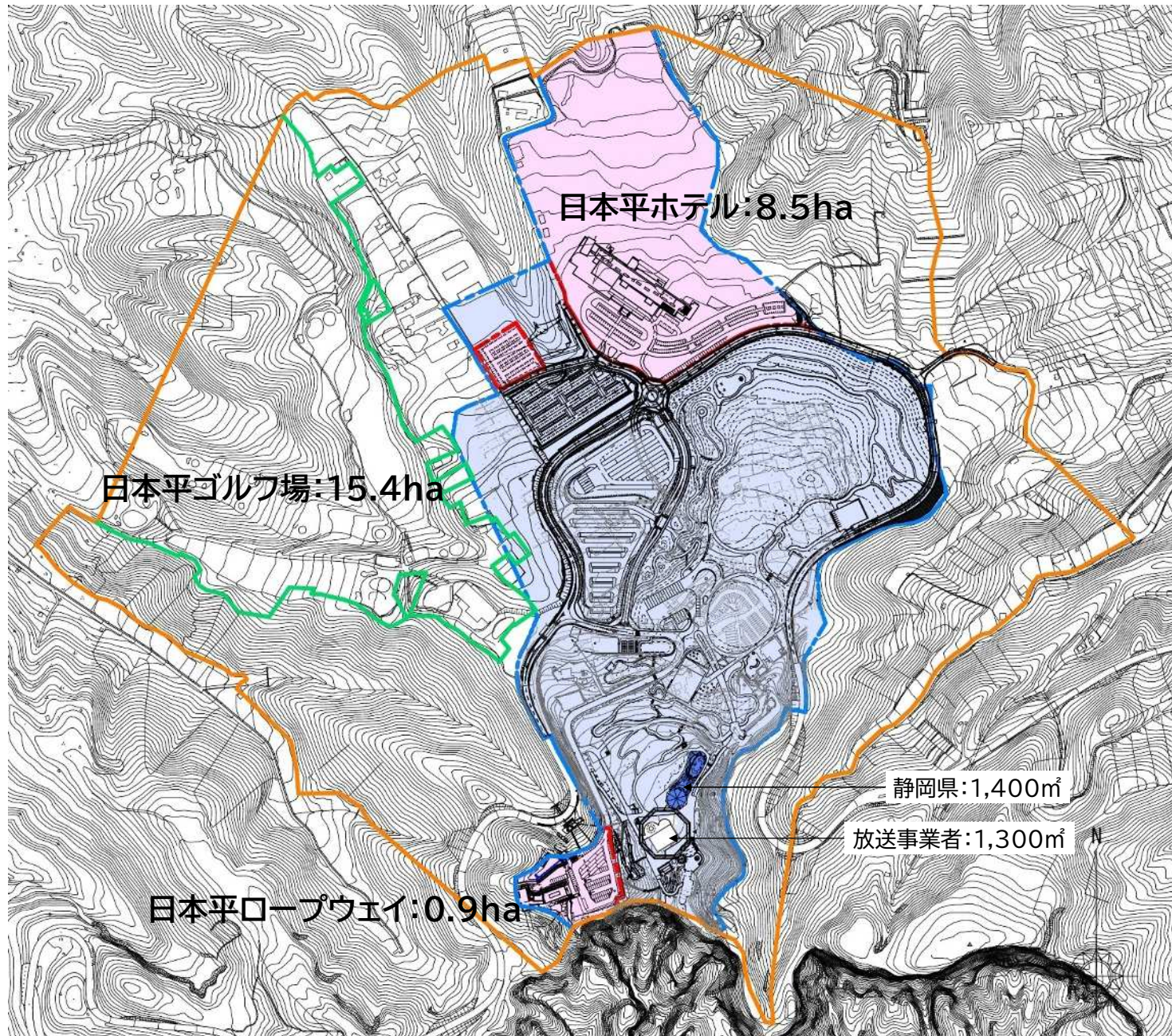
しずてつジャストライン (1時間間隔 日9本)
新静岡→静岡駅→東静岡駅→日本平動物園→舞台芸術公園→遊木の森
→日本平ホテル→日本平夢テラス→日本平ロープウェイ



◆主な起点からの日本平公園への時間・距離



◆公園区域



- 都市計画公園区域: 88.5ha
- 事業区域(公共): 23.5ha
- 事業区域(民間): 9.4ha

第4回改定専門委員会等の主な指摘事項

第4回改定専門委員会等の主な指摘事項

①委員会の主なご意見

項 目	内 容	対 応
基本平面図案 (ゾーニング・施設配置)	理念や場所（空間）のあり方、作り方を定め、駐車スペース当たりからゾーニングをまとめる	本資料P12～P14
	段階的整備を念頭において基本計画を検討する必要があるのではないか	別紙（概略工程表）
	都決区域の周囲を含む広い範囲から公園計画を検討する必要がある。特に、日本平ホテルや日本平ロープウェイ（久能山や久能山下を含む）は本公園と一体であり、これらを含めて計画を検討する必要がある	本資料P8～P10
	既存店舗の今後の位置付けや方向性について明確にしておく必要がある	今後の課題として整理
	ミュージアムショップの充実が必要	霊峰テラスで対応
	（霊峰テラスの計画にあたっては）日本平夢テラスとの機能・役割分担を考慮しておく必要がある	報告書に記載
新規駐車場	新規駐車場への移行の段階計画を明確にする	第1→県駐車場撤去
	新規駐車場が既存店舗（月日星、川崎家）や山頂部から遠隔地になるため、各施設・ゾーンへの動線や動線処理を明確にする	本資料P25～P26
	旧パークウェイ（静岡側）からの駐車場の見え方や、日本平ホテルからの駐車場の見え方を断面図等で検証する	本資料P27～P28
	駐車場をアプローチ道路西側にまとめるのであれば、バス駐車場や身障者駐車場等も西側にまとめた方がよい	今回、計画修正
霊峰テラス	計画では3階構造としているが、それを含めてデザインについては今後の検討項目とし、本計画では、配置や景観性（突出を避ける等）への配慮等について記載する程度とした方がよい	報告書に記載
園路 (動線計画)	（新規駐車場から）日本平ロープウェイへの誘導に配慮した動線計画や運営が必要	本資料P25～P27
	旧パークウェイから各施設への車両動線を明確にしておく必要がある	
活動メニュー	グリーンツーリズムなど、学校教育（市内の小学校、中学校、幼稚園、保育園）を対象としたメニューも考えられる	報告書に記載

第3回改定専門委員会等の主な指摘事項

項 目	内 容	対 応
持続可能性への対応	公園での収益を日本平の環境保全のためにストックしていくような仕組みを作っていくことも、持続可能な管理の仕組みではないか	報告書に記載
管理運営	事業者、市民団体、市民が協議しながら行動していく管理の仕組みがあると良い	今後の課題に記載
民間活力の導入	民間事業者には、段階的なチェックや計画の見直し等、プロセス（手続き）を丁寧に周知することが必要。市民の意見がしっかり入るように定めておくことが必要	今後の課題に記載
	本公園の整備にあたっては、民間活力の導入が基本であることをはっきりさせ、各施設については、まず意向や条件を明確にする	本資料P11
	公民の役割分担は理由を明確にし、公が担う範囲は、責任を持って担保し、手続きを明確にした上で民の担う範囲や条件等を定めることが重要	今後の課題に記載
	（本計画での）民間導入については、方向性のみの記載や今後の課題として記述、なども考えられる	本資料P25～P27
	駐車場の利用料金は収益性が高いため、一体管理にセットにするなどが考えられる。	駐車場有料化を想定
市民対応	「①観光的価値」、「②文化財的価値」、「③市民の日常を豊かにする価値」の3つを同時に満たす場の考えは新規性があるが、その点が明確に伝わるように、記述表現を工夫する。	本資料P11

基本計画の方向性の確認

基本計画の方向性の確認

1) 日本平公園の現況と評価

(1) “日本平”が有する歴史文化的背景

- ・「日本平」の地名は、日本武尊(やまとたけるのみこと)が山頂から四方を眺めたという神話から名付けたとされており、その周辺には日本武尊を祭る草薙神社や、東征に因ちなんだ地名も多く残る
- ・日本平からの良好な眺望は、古くから絵画などにも描かれ、特に近代以降には、日本平の地名とともに広く知られるようになり、とりわけ「日本新八景と日本百選」(平原の部百選入選)に続く徳富蘇峰の活動が、その名を周知
- ・蘇峰は、わが日本を守護する霊験あらたかな山、富士山を望む有度山を絶賛し、併せて四周展望に優れた日本平を天下第一と高く評価

(2) 潜在的資源を含む日本平公園の資源

- ・日本平公園の地形的特徴による富士山を始めとする四周眺望
- ・全国レベルの観光資源(三保松原、清水港、久能山、登呂遺跡、駿府城公園等)の立地
- ・日本平ホテルや日本平ロープウェイ、日本平夢テラス等の市を代表する観光施設の立地
- ・有度山内に立地する日本平動物園や文化・芸術施設(静岡県立美術館、静岡県舞台芸術公園等)
- ・草薙神話や久能山等の地域が有する古くから固有の歴史性、文化性
- ・国指定名勝、自然公園、都市公園、風致地区等、様々な法規制による自然風致の担保
- ・静岡市中心市街地や主な交通結節点から至近にある立地性

(3) 将来計画を含む市場環境

- ・公園利用者の8割以上が観光利用。一方、県内からの利用が35%で、その内の6割弱が市内利用者
- ・インバウンド需要は韓国、台湾、アメリカ、中国の順で多く、全体の50%以上がアジア近隣諸国からの入込。今後の重点ターゲット市場(観光基本計画)に向けた国際ネットワークの活用やクルーズ船対応戦略等によるインバウンド需要に期待
- ・清水港への大型クルーズ船はコロナ以降、徐々に回復傾向にあり、将来的な顧客層として期待できる。寄港地ツアーの訪問先では、三保、東照宮、日本平の順に高い
- ・日本平夢テラス、東照宮(日本平ロープウェイ)、日本平ホテルで、直近の年間来園者数は約100万人(令和6年3月2日交通量調査及び静岡市位置情報データ)。夢テラス等に匹敵する集客施設の導入や、イベント、夜間利用等の充実したソフトの展開等によっては来園者数の増大に期待(過去の最大値:昭和52年/約280万人)

2) 地域連携に向けた取り組み方針

- ・静岡市中心市街地に位置する有度山の山頂に位置し、県立自然公園等、様々な法制度によって保持されている緑地の主要な構成要素
- ・その立地性から古くから観富の地として全国的にも広く知られ、絵画の舞台や、特に近代以降は多くの観光客が訪れる観光地として発展
- ・ヤマトタケル神話や久能山東照宮などの歴史文化を伝える、静岡市を代表する観光・文化資源の集積
- ・一方で、中心市街地に点在する重要な地域資源も、観光・経済・交流の観点からは十分な活用が図られているとはいえ、上位関連計画等においても、プレイス・ブランディングの必要性を明示
- ・静岡市観光基本計画(2024年度~2030年度末)では、観光戦略に基づく「美食」、「絶景」、「歴史」、「ホビー」を重点テーマとした近隣ツアーの造成や、観光プロモーションの展開、大型クルーズ客船の乗船客に対する市内周遊の促進等、域内資源の連携による統一的なブランディングの確立、展開を提示

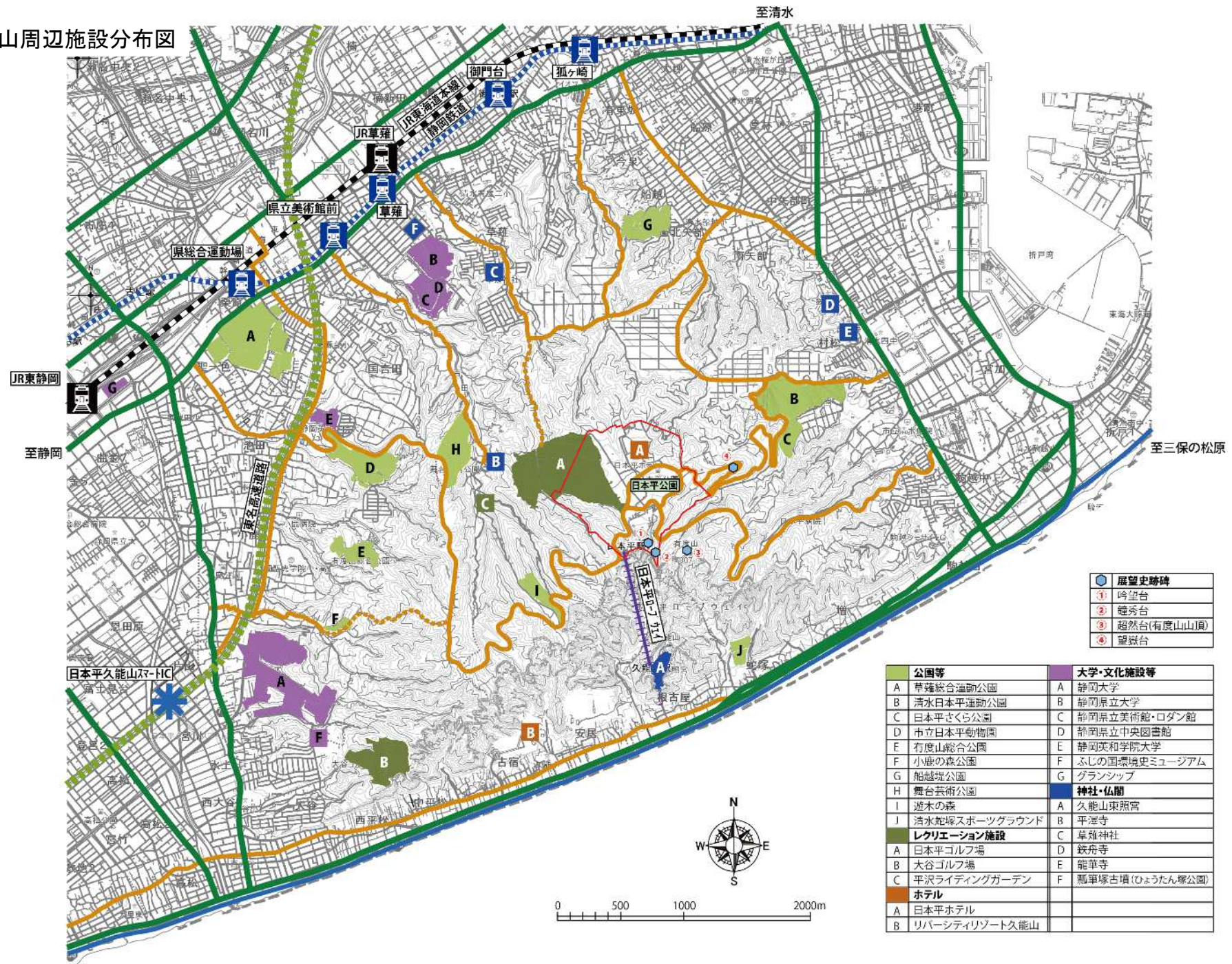
(1) 域内施設等との連携

- ・静岡市中心市街地の域内は、清水港や三保松原などの資源が集積する清水市街地・清水港周辺・三保エリア、徳川家康にゆかりの深い駿府城公園や静岡浅間神社等のある静岡市街地、その中央、静岡市2区(駿河区、清水区)にまたがる有度山には、日本平公園や久能山東照宮の他、草薙神社や鉄佛寺等の歴史的な社寺や、静岡県立美術館等の文化施設、日本平動物園、IAスタジアム日本平等のスポーツ施設が集積しており、各エリアでは、周遊観光のモデルコースを設定
- ・JR東静岡駅前や静鉄草薙駅前、清水港、東照宮の門前にあたる久能山下等で、新たな開発も検討されており、静岡市観光基本計画の評価指標(宿泊客の観光消費額、宿泊者数の増加)の達成に向け、これらの新たな拠点を含め、公共交通網の整備や観光プロモーションの展開等、前述の3エリアの連携を提示

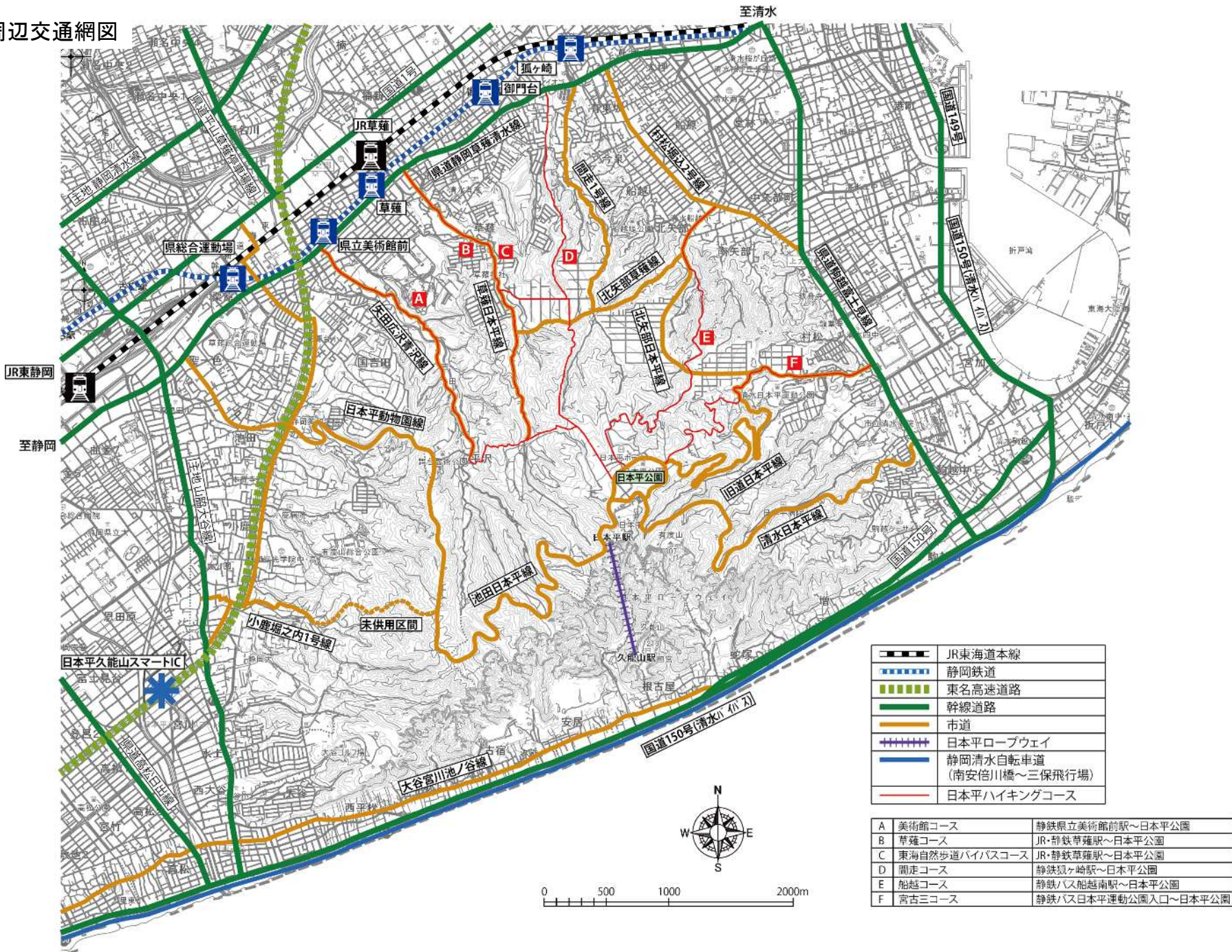
(2) 有度山内施設等との連携

- ・有度山全体が県立自然公園に指定されており、開発は限定的ではあるものの、久能山東照宮を始めとする古社や古寺、大学、県立美術館や舞台芸術公園等の文化施設、都市公園、運動施設等が山麓部を中心に整備
- ・山頂日本平には、日本平ホテル、日本平ロープウェイ(久能山東照宮の往来)、日本平ゴルフ場が民間により整備
- ・有度山の交通網は、日本平を経由して静岡と清水を結ぶ旧パークウェイ(池田日本平線、清水日本平線)と当初の登山道であった旧道清水日本平線で、それ以外では、北斜面に南北間道路が通過しているが、いずれも山頂にはつながっていない。また、主に北及び東斜面に山麓から日本平山頂に至る複数のハイキングコースを設定
- ・地形的制約から道路網が限定的で、特に山麓に位置する施設や、久能山下からのアクセスが弱く、各施設の移動や連携の改善が必要

有度山周辺施設分布図



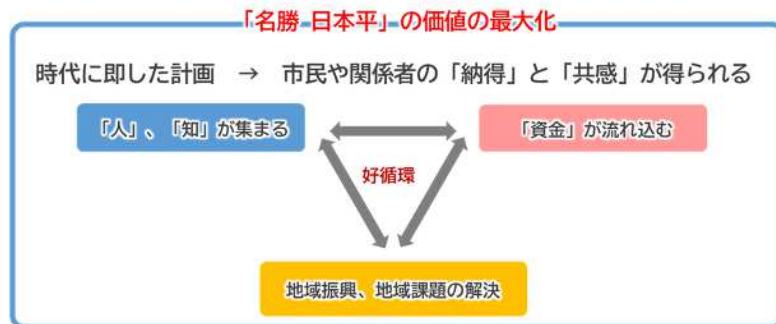
有度山周辺交通網図



基本計画の方向性の確認

3) 計画の目標

- ① 名勝日本平の観光価値の最大化に資する公園づくり
 - ② 市民の憩い、レクリエーション、歴史文化体験の機能向上に資する公園づくり
 - ③ 名勝日本平の持続的保全に向けた適正な利活用の場の形成
 - ④ 観光行動と消費を促し、地域活性化に寄与する公園づくりを柱とし、
- 「観光地域づくり」に寄与する、「絶景」の感動体験を堪能できる“サステナブルツーリズム”拠点の形成
- 市全体の観光消費と宿泊需要を創出し、都市観光の拠点となる事業型施設群の形成
- 「魅力を高めて“人”と“知”を集め」、「投資や資金を誘導し」、「地域振興に資する」好循環を生み出す観光拠点の形成



《計画目標に向けた取り組み》

- ① 観光地域づくりを見据えたブランディング化と集客力の強化
 - ・静岡市の持続的な観光振興の中核となる公園機能の強化
 - ・観光振興に資する周辺観光地との連携強化と、周遊性向上の核となる拠点の形成
- ② 地域連携・地域振興の促進
 - ・交通ネットワークの構築や地域資源との連携
 - ・市民参画や積極的な公民連携を通じた地域振興への貢献
- ③ 自然環境や歴史文化資源の活用
 - ・有度山山頂部（日本平上位面）の自然環境の保全・活用
 - ・魅力ある歴史文化資源の強調

《公園利用の活性化》

- ・一年を通じて非日常感を感じることのできるグレードの高いレクリエーションや市民交流の場となる、地域活性化の中核を担う公園づくり
- ・観光需要の拡大に向けた、静岡市の特産である美食・絶景・歴史をテーマとしたアクティビティによる質の高い感動体験ができる公園づくり
- ・公園区域を最大限に活用するため、将来的なクルマ社会への対応と、三保松原等の周辺観光地からの回遊性を進展させる新たな交通手段等の導入
- ・集客力を高めるため、カジュアル層からエグゼクティブ層までの幅広い利用ニーズに対応する、高付加価値な宿泊施設や飲食施設、貴重な体験施設やプログラム等を提供

4) 基本テーマ

「風景」の文化財的価値に加えて、市民生活の質的向上と、日本平の観光的価値を高める視点を踏まえ、富士山や駿河湾、伊豆半島、南アルプス等の遠景の視対象や、静岡、清水の中景の夜景といった変わらぬ風景に対し、公園整備による、

- 公園内のビューポイントや近景の構成要因の改善
- 歴史文化の解説と演出
- 様々なアクティビティの導入による非日常感の提供

を計画の骨子とし、日本を代表する絶景とともに、自然環境を最大限に活用した様々なアクティビティの導入や、歴史文化のストーリーを加えることで、季節や時間の移ろいとともに、園内各所で観光資源としての質の高い驚きと感動が体験できる魅力づけと、日本平公園のブランディング化を強化する。

風景美術館＝日本平 ～日本平の「驚きと感動」体験を支える日本一の展望公園を目指す～

主テーマ	テーマの展開イメージ
絶景	目の前は日本一の眺望 ○「季節が織りなす風景」 富士山を主景とした四周の風景と、園内の木々や草花が織りなす季節の移り変わりが、日本平の壮大な風景を創出し、いつ来ても感動の広がるビューポイントやシークエンスを設定 ○「光が醸し出す風景」 1日の時間の中で山容を明瞭に見せる朝の風景、駿河湾から立ち上るもやで霞む日中の風景、日が沈む夕照、市街地の夜景、夜空の星の輝き等の光の風景を堪能できる場と環境を点在させるとともに、「日本平夜市」やライトアップイベント等、夜間のアクティビティを提供
歴史	固有の歴史資源と遭遇 ○「歴史が紡ぐ風景」 ヤマトタケルノミコトの時代を経て、家康公の東照宮に続く、1,400年余りの悠久の歴史をもつ日本平・久能山において、古くから多くの人々の信仰を集めてきた、かけがえのない聖地としての文化的風景を形成
アクティビティ	賑わいと自然体験を提供 ○「人が奏でる風景」 子どもたちの歓声、園内で催されるイベントや音楽の調べ、人々が利用することで生まれる活気にあふれた景観と、自然の中での様々な体験を通じて得られるウェルビーイングなライフスタイルに寄与する賑わいと交流の風景を創出

基本計画の方向性の確認

(1) 空間の骨格構成

①平原ゾーン ～富士に広がる展望～

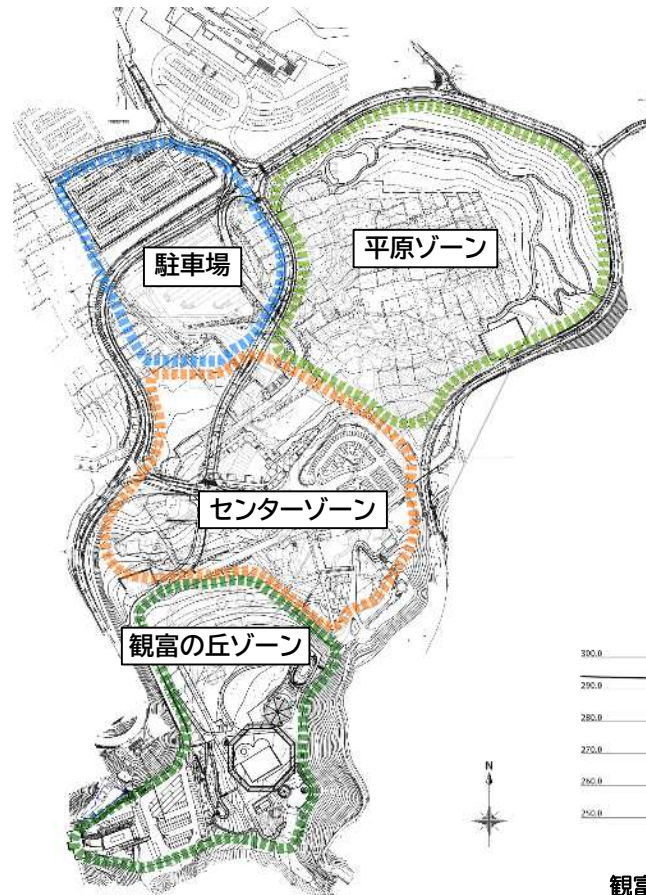
富士山方向に大きく開けた緩傾斜の地形を生かした開放的な芝生地や花修景地として活用。

②センターゾーン ～広場に集う、まちの賑わい～

来園者の集散・交流の場とし、祭り・イベント空間や、茶屋などの飲食・物販施設を配置して、まちのにぎわいを創出。

③観富の丘ゾーン ～歴史が伝える四周の眺望～

展望史跡のひとつである吟望台や夢テラス、展望回廊、久能寺（現在は東照宮）への現代の参詣道であるロープウェイをシンボルとして、四周に開けた丘陵山頂部を活かした静謐の園地として活用。



駐車場は、山頂部からの景観に配慮してアプローチ道路西側の北端に配置。立体構造とし、施設規模を抑制

日本平ホテル

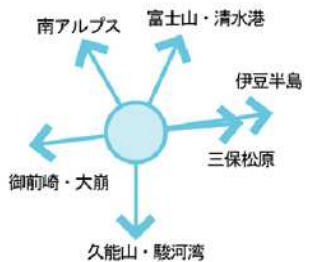
かつての日本平上位面の地形の再生を目標として、極力、富士山方向に連続する緑地を形成

- 山頂部から遠隔地になる駐車場からの来園者のエントランス施設として霊峰テラス(公園センター)を平原ゾーンとセンターゾーンの中間に配置
- 利用の平準化を図るため、山頂部における夢テラスの対となる拠点施設として位置づけ、公園北側への来園者の移動を誘導

ラウンドアバウト交差点からのアプローチ道路を、できるだけ西に寄せて配置

日本平夢テラス

日本平ロープウェイ



基本計画の方向性の確認

5) 空間の骨格構成

(1) 計画地の現況

① 平原ゾーン



基本計画の方向性の確認

② センターゾーン



③ 観富の丘ゾーン



基本計画案

1) 導入機能・施設の設定

(1) 基本的考え方

- ・市民利用ニーズや観光需要に柔軟に対応する機能向上を図りつつ、基本テーマ（日本平の「驚きと感動」体験を支える日本一の展望公園）の実現に向けて、その取り組みとしての「絶景」「歴史」「アクティビティ」の視点から、導入施設を想定
- ・一年を通じて市民に親しまれる公園としていくための、市民の非日常体験の場の形成と空間演出
- ・持続可能な公園運営に向け、利用者の滞在時間の延伸により費用対効果の改善を図るとともに、施設建設や運営管理への民間活力を誘導する環境を整備
- ・富士山が見えない来園時にも、その機会を十分に楽しめる施設やアクティビティを提供
- ・景観に代表される日本平の長所を活かしつつ、新たな観光トレンドに柔軟に対応した様々な体験・活動メニューの提供
- ・今後の増加が期待されるインバウンド需要への積極的な対応
- ・経済的・効率的駐車場計画に向けた、利用の平準化に資する施設構成の検討
- ・近年の温暖化に対する酷暑対策等、特に夏季の利用者の快適性に配慮

(2) 導入施設のイメージ

① 絶景

- ・日本一の展望公園、壮大な海と空と富士山を始めとする四周眺望機能の強調
→ **霊峰テラス(公園センター)・展望テラス**
- ・日本夜景遺産や日本平の夜景を活かしたビュースポットの設置と夜間利用の拡大
→ **霊峰テラス・展望テラス・芝生広場**
- ・6月から9月の、特に富士山が見えづらい時期の利用に対応したサービス機能の導入
→ **霊峰テラス(映像)・フラワーガーデン**
- ・広い敷地を活かした大規模花壇や茶畑等の修景機能の向上 → **フラワーガーデン・体験茶畑**

② 歴史

- ・草薙神話や久能山等の古くからの歴史や徳川氏ゆかりの地である地域性を踏まえ、固有の歴史・文化資源の保全と活用を図るための環境づくり
- ・日本武尊(やまとたけるのみこと)をモチーフにしたキャラクターイメージを幼児の遊び場やアドベンチャー系遊具等に展開 → **幼児の遊び場・アドベンチャー系遊具**
- ・本公園の歴史性を演出する野草(ススキ等)や、季節イベントに呼応した花木(ユメマチザクラ、タキザクラ、カワズザクラ、ウメ等)の配植
→ **フラワーガーデン・芝生広場・サクラテラス+タキザクラの庭・和風庭園(梅園)**

③ アクティビティ

- ・多様なアクティビティが提供できる魅力ある市民交流・観光交流の拠点づくり
- ・食の地産地消による極上の美食の供給、地域の風土や文化を体感するガストロノミー・ツーリズムの推進 → **レストラン・カフェ・甘味処・物販**
- ・公園を形成する自然や景観、花修景等による四季折々の素晴らしい眺望を満喫でき、ゆっくりとした時間を過ごせる憩いの空間づくり → **芝生広場・フラワーガーデン**
- ・自然環境の多様な機能を活かし、自然とのふれあい機能や遊び機能の導入
→ **ファミリーパーク(幼児の遊び場・ピクニック園地)**
- ・富士山の眺望とバーベキューを楽しむ、開放的なテラス機能の導入 → **バーベキューテラス**
- ・居心地のよい空間が生み出す心豊かなライフスタイルを形成する交流・滞在機能の導入
→ **グランピング**
- ・自然のロケーション地で、活動的な遊びやダイナミックな自然体験ができる空間づくり
→ **アドベンチャー系遊具・ジップライン**
- ・お茶のまち静岡、本場のお茶や人との交流を楽しむ体験型の活動の場の提供 → **体験茶畑**
- ・公園の中心部には、利用者の集合離散や地元のイベント開催、キッチンカーの配車等の様々な活用される広場を確保 → **センター広場(集散、イベント、キッチンカー等)**
- ・有度山内に立地する県立美術館や舞台芸術公園等と連携したアート展や文化祭等、文化的イベントの受け皿となる広場を確保 → **センター広場**
- ・敷地の広さと地形を活かした、複数の会場で催される野外音楽フェスティバル
→ **芝生広場・センター広場**
- ・市内観光交流施設の拠点機能の確保(市内観光施設との連携) → **霊峰テラス(観光案内)**
- ・近年飛躍的に増加しているクルーズ客への受入態勢の強化と周遊促進
→ **霊峰テラス(観光案内、展示、飲食)・体験茶畑**
- ・安全で快適な園内移動手段の確保(自動電動カートなどの交通システムの導入)

基本計画案

2) 施設概要及び施設配置計画

(1) 平原ゾーン

～富士に広がる展望～

富士山方向に大きく開けた緩傾斜の地形を生かした開放的な芝生地や花修景地として活用



基本計画案

【施設概要・イメージ】

① 大芝生広場

エリア最下部（北東端）の整備済み芝生広場の延長。富士山を主景に三保半島や清水市街地、清水港、伊豆半島が遠望できる開放的な園地。本公園の枢要なビューポイントとして位置づけ。



大芝生広場現況



展望デッキ（加工）



ハンモックベンチ

② こもれびの遊歩道

アプローチ道路沿いのバリアフリー対応歩行者園路。富士山の眺望を阻害しない敷地にあたるため、雑木や花木等の疎林地を形成し、アプローチ道路からの公園エントランスとしての修景地として活用。



③ ファミリーパーク

大芝生広場の北西端の一隅を位置とした、主に子ども連れの市民利用に対応したレクリエーション施設。ピクニック園地や、日陰施設を併設した幼児遊具コーナー等で構成。



ピクニック園地（ミッドタウン東京）



日除け付き幼児遊具コーナー

④ 体験茶畑

現在の手もみ茶保存会館のリニューアル。現況の茶畑を極力、残す配置・形態とする。但し、現在の会館建物の老朽化と眺望の阻害要因となっているため、移設の上で改築。

基本計画案

⑥ フラワーガーデン

大芝生広場から連続する上側（南西側）の緩傾斜地を園路で囲み、広大な敷地を活かした宿根草やグラス類を主体とするナチュラルガーデンや、野草が混在するくさっぱら、ツツジやサクラなどの花木等から成る草花の庭園。富士山の前景としてばかりでなく、富士山が見えない時でも楽しめる散策園地として整備。

一部にバーベキューコーナーを設けるなど、レクリエーションメニューに幅を持たせる。高い維持管理レベルを保つため、季節別園地有料・閉鎖管理を想定。



富士山の前景となる花畑



ナチュラルボーダーガーデン



くさっぱらでの野外音楽フェス



スカイウォーク(お台場海浜公園)



BBQコーナー



くさっぱら外周のグラスガーデン



富士山とキャラクターモニュメント



さくら山

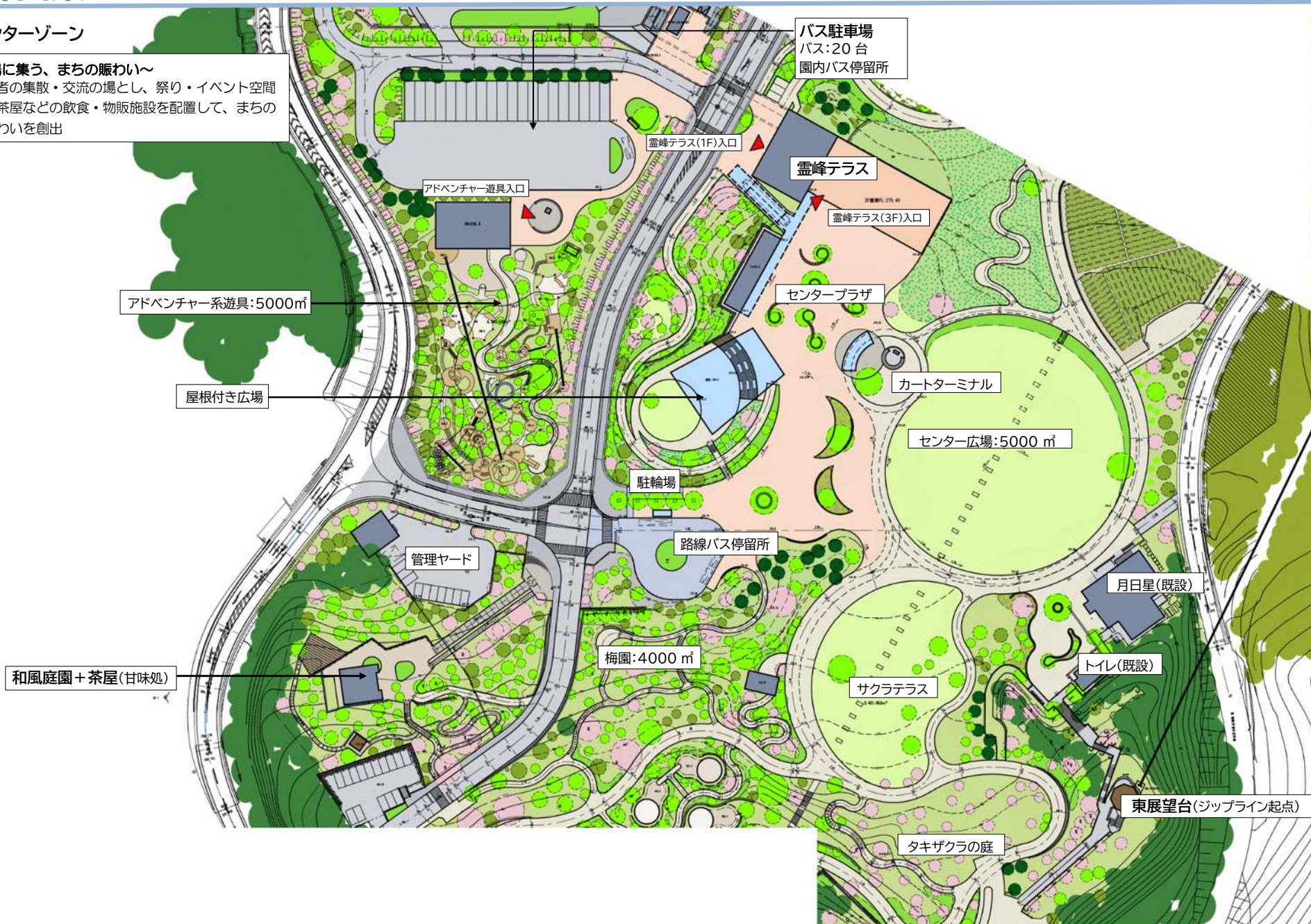


つつじ園(山のホテル)

基本計画案

(2)センターゾーン

～広場に集う、まちの賑わい～
来園者の集散・交流の場とし、祭り・イベント空間や、茶屋などの飲食・物販施設を配置して、まちのにぎわいを創出



基本計画案

【施設概要・イメージ】

① 霊峰テラス（公園センター）

本公園の複合サービス機能を担うセンター建築施設。富士山が見えない時も利用できる映像展示（たとえば日本平の歴史や静岡市の風景地の紹介等（絶景映像テラス））や公園のビジターセンター機能、飲食・物販、賓客を接遇するゲストルーム、公園管理事務所等の利用を想定。富士山方向に開かれた大窓や外部広場と連続した屋上部を利用した展望テラスを配置。

エントランス広場をはさんだ駐車場からの直近のアプローチ道路沿いに配置し、アプローチ道路とセンタープラザの比高差を解消する多層構造とすることにより、建物内のエレベーターやエスカレーターによりバリアフリー経路を確保。



大窓からの富士山の景（日本平ホテル）



ガーデンレストラン（目黒雅叙園東京）



映像展示（十日町市博物館）



ミニシアター



デジタルアート展（渋谷ヒカリエ）

② センター広場

霊峰テラス屋上の展望テラスにつながる中央広場。日本平夜市や梅まつりなどの様々なイベントや野外コンサート等の受け皿となる芝生広場（中央芝生広場）と、キッチンカーなどが置ける舗装広場（センタープラザ）から構成。



日本平夜市



中野セントラルパーク